

# 天龍村ガイド



ふれあいステーション龍泉閣/JR平岡が併設された宿泊施設。大展望浴場は、「村営おきよめの湯」からの直送のお湯です。信濃恋しから車で10分。



茶畑／中井待地区。眼下に天龍川を望む急傾斜地に茶畑が点在しています。信濃恋しから車で30分。



和知野川キャンプ場／県下でも一番の清流である和知野川沿いにあります。



ゾウホウソウ(村鳥) 長野県の天然記念物。夏鳥として毎年5月上旬に渡来します。

# 天龍村観光協会

●信濃恋しの地形  
平岡ダム完成(昭和26年)以前の当地は、急流と岸壁がぶつかり、複雑な地形となっていました。そのため、川はいったん上流に押し戻されるような流れをなしていました。そこに、諏訪湖方面から木材を運ぶ筏や、旅の船が流れてくると、まるで信濃の国を借しむかのように船のへさが上流を向くことになり、これを「信濃恋し」の地名の由来であるとする説もあります。



船が為栗(じつぐり)を過ぎよつかといふ所へさしかかった時、娘は堪え難い別れの悲しみを振り切るために、涙をこらえ御守袋を水中に投げ入れました。すると、御守袋の沈んだあたりからいさな渦が起ころはじめ、うずはみるみるうちに大きくなり、舟はもと来た方へ向けてしまい、そよみ先へ進むことができなくなってしまう。里に戻る事ができた娘は、めでたく愛しい人と夫婦になり、家をもりたて親に孝行を尽くしたといふことです。娘の、故郷を想い、人を想う純粋な心が天に通じた不思議であるとして、いつかこの淵を「信濃恋し」と呼ぶよつになつたと伝えられています。



その昔、温田村(現在の泰阜村)に、愛しい人と将菜を誓い合った美しい娘がいました。ある冬のはじめ、娘は三河の国長篠(現在の愛知県新城市)へ奉公に出されることになりました。愛しい人と再逢することは叶わぬかもしれない別れの際に、二人は互いの御守袋を交換し、娘はそれを抱きしめるよつにして小舟に乗り、天龍川を下っていききました。

## ◆信濃恋し物語◆

- 1. 恋人同士が「信濃恋し」に小石を投げ込めば、その恋が実ると言われています。
- 1. 夫婦が「信濃恋し」に小石を投げ込めば、夫婦円満、生涯仲良く暮らすことができると言われています。
- 1. 一つの小石に自分の名を、もう一つの小石に想う相手の名を記し「信濃恋し」に投げ込めば、想いが叶うと言われています。



信濃恋しの紅葉

# 名勝 信濃恋し

二は縁結びの名所

## 小石投げれば、恋叶う。

